



子どものやる気を潰す呪いの言葉（NGワード）10

子供のいけない行動を正そうとして、逆に子供のやる気を潰す「呪いの言葉」（NGワード）を発してはいないでしょうか。子どもの行動にイライラしてしまい、わかってはいるが、つい出てしまう「呪いの言葉」を紹介します。

1 「指示する」…〇〇をやっておくように

例としては「おやつを食べたら勉強するように」です。子どもが小さい時は、このような指示も必要です。しかし、子どもが大きくなっても指示ばかりしていると、指示待ち人間になってしまいます。指示に慣れ、自分からは動けなくなってしまうのです。



2 「命令する」…〇〇しなさい

代表例として「早くしなさい！」が挙げられます。命令ではなく「どうすれば早くできるかを考えて対応する」方が、やる気を出させるには効果的です。命令では子どものやる気を引き出せません。



3 「脅迫する」…〇〇しないと△△になるよ

例としては「今やっておかないと、後で大変になるよ」などです。保護者は脅迫とは思っていないかもしれませんが、子どもにとっては脅しの一種と受け取られます。このように恐怖をあおったり、脅迫したりでは、一時的に行動を起こすことはできてもやる気を高めることはできません。



4 「説得する」…「大切なことだからがんばりなさい」

子どもが真剣に耳を傾け「はい、わかりました！」と応えるときは有効です。しかし、お小言のようにとらえられた場合は「また始まったよ」と感じているだけになります。



5 マウンティング…上から目線の言葉

「そんなことをやっても意味がないよ」「まだできないの？」「さっき言ったでしょ」などがこれにあたります。やみくもにマウントを取られ、上から目線で言われると、反発するのが子どもです。

6 「皮肉」…相手に悟らせようと、遠回しに言う

「いつになったらやるのかな～」「ゲーム楽しそうね～」などがこれにあたります。大人同士で使うとカチンときてしまいます。子どもだって同じです。益々旬としてしまいます。

7 「嫌味」…当てつけのような言葉

例えば「今日は珍しく勉強しているのね」などがこれにあたります。「いつもはやらないのに、何で今日はやってんの？ 珍しいこと…」というニュアンスで受け取られてしまいます。

その意味するところは、子どもにも伝わっています。

8 「投げやり」…何度言ってもやらない時に発してしまう言葉

例えば「そんなにやりたいんだったら、やれば！」がこれにあたります。子どもは天邪鬼なので、一時的にやり始めることがあります。自らのやる気で動いているわけではないので、長続きはしません。

9 「キれる」…感情的になる

「いい加減にして！」「何度も言わせないで！」など親の感情がストレートに言葉になって表現された場合、子どもにとっては「親がキれた」と感じます。しかし、子どもには肝心な内容が伝わっていません。子どもはキれた親の言葉を聞きたくないため、スルーしたり、適当にいなして対応したりします。

10 「比較」…子どもがもっとも言われたくない言葉

「お姉ちゃん（お兄ちゃん）は、ちゃんとやっていたよ！」「〇〇ちゃんはがんばっているよね」など、他者との比較は最もやる気がなくなってしまいます。

◎呪いの言葉（NGワード）の留意点

①呪いの言葉は減らす努力をしても、0にしようとは思わないこと

→ネガティブワードをいきなり0にしようとする、逆にストレスが溜まって逆効果になるかもしれません。

②呪いの言葉を使うほど、子どもに免疫がついてしまう

→呪いの言葉は、一時的に子どもの行動を変えるかもしれませんが、やる気を喚起しているわけではありません。子どもたちは、やがて対処法を身に付け、上手にかわすようになります。逆に親の感情は益々高ぶり、負のスパイラルに陥ってしまうのです。